

(別紙)

病院医学教育研究助成成果報告書

(1) 研究題名

糖尿病合併症管理料算定の要件である糖尿病足病変に係る適切な研修の受講

(2) 研究組織等

研究組織の名称

看護部

研究責任者名(所属)

吉岡みち子(看護部)

共同研究者名(所属)

藤田直美

秦美恵子

八國秀子

武田美和子

(3) 研究費及び研究費の使途

研究費

252,000円

研究費の使途

受講料

90,000円

旅費・宿泊費

研修に必要な物品の購入

(4) 目的及び方法、成果の内容

目的

糖尿病の重症化予防に係る指導・管理の評価として平成20年度に糖尿病合併症管理料(170点)新設された。糖尿病足病変に係る適切な研修を終了した看護師が1名以上配置されていることが算定要件の一つである。看護部では看護の専門性を発揮するために看護専門外来にフットケア外来を開設するための人材育成を図る。

方法

1) 研修会参加 2名

・糖尿病重症化予防(フットケア)研修

日本糖尿病教育・看護学会主催

平成20年11月29日から30日 京都大学医学部附属病院会場

受講者：佐仲みどり

・糖尿病重症化予防（フットケア）研修

社団法人 日本糖尿病協会主催

平成 20 年 12 月 13 日から 14 日 広島大学医学部保健学科棟会場

参加者：田中沙枝子

2) 研修会参加者による現場でのフットケアの実践

3) フットケア外来開設にむけた準備

成 果

1) 研修会参加 2 名

平成 20 年 4 月から、糖尿病合併症管理料(170 点)として糖尿病の重症化予防のためのフットケアについて診療報酬が認められるようになった。指導できる看護師の質を担保するために、糖尿病患者へのフットケアの意義、糖尿病足病変の病態生理から治療に関する基礎知識、足病変に対する評価方法、フットケア技術、セルフケア支援及び事例分析・評価等の内容や演習が含まれる研修を 16 時間以上又は、2 日間程度受講した者が糖尿病患者のフットケアを実施し診療報酬に見合った効果が期待できるとされている。

受講者 2 名は、日本糖尿病療養指導士認定機構認定の日本糖尿病療養指導士であり糖尿病の療養指導を病棟で実践している。今回の研修内容は、講義として「糖尿病患者の療養を支えるフットケア」・「糖尿病患者の足病変～病態生理から治療まで～」・「フットケアの実際～予防の為のセルフケア支援」・「糖尿病合併症重症化予防における、フットケアの評価と今後の課題」。演習は、「糖尿病患者のフットケアの為のアセスメント」・「事例分析と評価」を受講した。研修受講を終了したことでより専門性の高いきめ細やかな糖尿病の適切なコントロールのための指導ができる人材の育成を図ることができた。

2) 研修会参加者による現場でのフットケアの実践

研修会参加者 1 人目は研修会参加後から、糖尿病パス入院の患者さんにフットケアについての支援時に、自宅に帰ってからの観察方法やケアについて実践しながら説明し自己管理できるところまで関わるできるようになった。

また、入院時から足全体の観察ポイントを丁寧にアセスメントし、履物、爪の観察にも目がゆき患者さんへの声かけが多くなり支援内容の向上に繋げることができている。また、研修内容を病棟で伝達研修したことで病棟看護師のフットケアへの関心度が高くなり質向上への中心的役割を担う人材となりつつある。

研修参加者 2 人目は産婦人科病棟で糖尿病を合併した患者さんや、抗癌剤と併用して使用するステロイドによる血糖上昇で初めてインスリン導入する患者さん、妊娠糖尿病でインスリン導入する患者さんの血糖コントロールに関わり、病棟スタッフに対して糖尿病についての勉強会を開催した。また、抗癌剤治療を受けている患者は、末梢神経障害の手足のしびれ・疼痛・感覚障害を訴えることが多い。その症状緩和にも研修会習得したフットケア技術を生かした、足の清潔・マッサージ・保温・爪切り方法・皮膚の保湿・靴下などについても指導できる環境を作りつつある。そして積極的に末梢神経障害の評価方法をアドバイスしながら看護研究にも取り組むことができている。以上のように研修会参加者は研修会参加前に比べ積極的に取り組むことができている。

今後は、診療報酬に見合う実効性の高いフットケア技術や足病変に対する評価方法、セルフケア支援ができるように事例を重ねながらより研鑽していくことが必要である。

3) フットケア外来開設にむけた準備

糖尿病看護認定看護を中心に今回の研修参加者 2 名と事例検討を定期的に行い 1 人 1 人の技術の向上及び知識の向上を図ると共に、フットケア外来に必要なツールとシステム作りに参加してもらい、早期にフットケア外来の開設に向けた取り組みに繋がりたいと考えている。